

令和5年度みんなでつくる福祉のまち川越プラン 総括シート

<取組実績の指標>

() は前年比

基本目標1 地域福祉のきっかけづくり

1-1 「おたがいさま」の心を育む

	◎	○	△	×
市・市社協	7 (↑ 2)	11 (↓ 3)	1 (⇒0)	1 (↑ 1)
地域	15 (↑ 4)	8 (⇒0)	1 (↓ 2)	2 (↓ 2)

1-2 交流の機会を増やす

	◎	○	△	×
市・市社協	8 (↑ 1)	6 (↑ 1)	0 (↓ 2)	0 (⇒0)
地域	24 (↑ 10)	21 (↓ 2)	4 (↓ 8)	1 (↑ 1)

基本目標2 支え合いの縁(円)づくり

2-1 担い手を支援する

	◎	○	△	×
市・市社協	6 (↑ 1)	10 (↓ 1)	0 (⇒0)	0 (⇒0)
地域	4 (⇒0)	6 (⇒0)	2 (↓ 1)	2 (⇒0)

2-2 寄り添い支え合う取組を支援する

	◎	○	△	×
市・市社協	5 (⇒0)	9 (⇒0)	0 (⇒0)	0 (⇒0)
地域	19 (↑ 9)	10 (↓ 5)	4 (↓ 1)	1 (↓ 3)

2-3 分野を超えて協力する

	◎	○	△	×
市・市社協	8 (⇒0)	4 (⇒0)	0 (⇒0)	0 (⇒0)
地域	8 (↑ 5)	5 (↓ 3)	2 (↓ 3)	1 (↑ 1)

基本目標3 不安の少ない暮らしづくり

3-1 安心して暮らし続けられるようにする

	◎	○	△	×
市・市社協	10 (↓ 1)	14 (↑ 1)	0 (⇒0)	0 (⇒0)
地域	7 (↑ 3)	3 (↓ 3)	0 (⇒0)	0 (⇒0)

3-2 もしものときに備える

	◎	○	△	×
市・市社協	3 (↑ 1)	3 (↓ 1)	0 (⇒0)	1 (⇒0)
地域	17 (↑ 1)	19 (↑ 1)	8 (↓ 2)	4 (⇒0)

○自己評価

総取組数305の内訳は、◎：141（+36、46.2%）、○：129（-15、42.3%）、△：22（-19、7.2%）、×：13（-2、4.3%）となった。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で活動を控えた事業もあったが、令和5年度は、市・市社協における基本目標について、全体で◎が4ポイント増で、計画通り実施できた事業が増加し、概ね順調であったと言える。特に、基本目標1-1「おたがいさま」の心を育むについては◎が2ポイント増で、催し等の機会を通して様々な福祉情報の発信や提供を行い、意識啓発を図ることができた。地域での取組においても、全体で◎が32ポイント増で、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことにより、コロナ禍前の状態に戻りつつあると言える。特に、1-2「交流の機会を増やす」については◎が10ポイント増で、世代間交流や地域の交流の場を設けるなど、地域活動を活性化させることにより、人と人との交流を図る機会を増やすことができた。

<アンケート調査に基づく指標>

比較可能な調査がないため省略。

<重層的支援体制整備事業の評価>

令和5年度実績

【全体】

地域福祉関係所属職員を対象に、地域福祉及び重層的支援体制整備事業の概要、社協CSWの活動状況をまとめた動画視聴研修を実施した。受講者からは、自身の業務に地域福祉の視点を持ちたい、多様な支援機関の連携が停滞している支援に有効に感じたなどといった声が聞かれた。引き続き、同様の研修を実施し、全庁的に取り組む体制の醸成に努めていく。

【各事業】

○包括的相談支援事業

福祉総合相談窓口の開設から3年を検証・分析するプロジェクトチームを立ち上げた。成果・課題・今後の方針などについて協議し、報告書にまとめた。今後、課題に対する取組の進行管理を行うことで、「川越らしい総合相談窓口」を追求していくこととした。

○参加支援事業

引き続き、CSWが担当地区において分野を問わない多世代交流の居場所づくりや担い手の養成等に努めた。また、多機関協働事業のケースについて、本人の意向に沿って支援を進めた。

○地域づくり事業

地域づくりの共有やあらたなつながりを生み出すための取組として開催した「めぐり逢エールかわごえ」のほか、助け合い活動やこども食堂・フードパントリーの実施団体の交流を図る場を提供し、ネットワークづくりを通じて、横のつながりを広げることができた。

○アウトリーチ等を通じた継続的事業

CSWが地区民児協の定例会において民生委員・児童委員からの情報を共有し、ニーズの掘り起こしを行った。支援が長期化する傾向にあるが、プランを策定して計画立てて支援していく必要がある。

○多機関協働事業

福祉推進課が中心となって重層的支援会議を開催し、複雑化・複合化したケースの検討を行った。分野を超えた支援体制をとることで、各関係機関間の情報共有が円滑に進み、各分野の専門的見地からの助言を生かした効果的な支援が行えている。

<川越市社会福祉審議会地域福祉専門分科会の意見>

◆多機関協働事業については、複雑化したケースについて計画を立ててプランを共同作業で作成し、PDCAサイクルで循環させる、という流れが必要であると考えます。

◆重層的支援体制整備事業における研修について、毎年度職員の人事異動があることから、継続してもらいたい。

◆取組がある程度進んできた段階で自治体に期待されるのは、まさに「地域づくりの共有」

「あらたなつながりを生み出すための取り組み」「実施団体の交流を図る場」「ネットワークづくり」「横のつながり」である。更なる地域づくりの充実に向けて有効な取組であると感じた。

◆彩の国あんしんセーフティネットのような社会貢献事業を、多くの社会福祉法人に取り組んでもらえるよう、研修会の開催等を通じて働きかけていけるといい。